芸豪烈伝その31

天光軒満月（てんこうけんまんげつ）

独自の営業努力で浪曲界の「中岡慎太郎」たれ

文・おさだ衛

本名・米澤重光。昭和23年うまれ、49歳。四国は徳島市の出身。25歳で初めて生の浪曲に触れ感動。家業の家具店を廃業し昭和51年、28歳で先代の三代目・天光軒満月に入門。師匠の前名・菊月となる。「入門時に四代目の満月は私が継ぐと宣言しました」。以来、精進を重ね平成元年10月に四代目を襲名。レコード歌手としても活躍。『空海』『友情』などを出している。浪曲の十八番は先代ゆずりの『父帰る』『嵐の孤児』ほか。テーブル掛けの狸は「他（た）を抜く」という競争心を示す。

事業を新しく始める人を起業家という。芸という事業を発展させ高価な商品にして売る起業家精神が、今の浪曲界に必要とされている。満月は自分自身という製品をたずさえ日本中を駆けまわっている。

「私は昭和51年に28歳で、この世界に入りました。浪曲の全盛期は全く知りません。だから電話の前で仕事を悠然と待つなんて出来ません。外に出て自力で仕事を探して取ってくるんです」

満月は28歳まで家具製造業で従業員や下請けは4社も使う経営者だったのだ。いわゆる芸人タイプではなく、世間の仕組みや社会の動きを知って積極的に活動する「起業家」芸人だ。

初めて自分が取ってきた仕事は老人ホームの慰問だった。「いまでも1年に50回は老人ホームの慰問をしています。もちろん損得ぬきです。ご老人や知的障害者の方に声を掛けたい。慰めてさしあげたい」

「私は大きい家に住みたい、うまいもんを食いたいと思ってません。芸人の本業は心さびしい人を慰めることですよ。金儲けよりも私の造語ですが『人もうけ』したいんです」

老人ホームの慰問、ヘルスセンター回りでもどんな仕事でも手を抜かず、お客さんの一人一人の触れ合いを大切にしてきた成果が現れている。

「毎年、仕事は増えてます。今年も年末までスケジュールは一杯なんですよ。仕事に行って終わるでしょ。世話人の方にね、来年どないしましょ、また来ますよ、手帳に書いとくよと仕事を決めることも多いんですよ。ははは」

身長168センチで体重が82キロ。いかつい顔だちで堂々たる押し出しだが、笑顔になると愛嬌たっぷり。ひとを引きつける魅力にあふれている。後援会の会員が千人ちかくいるが、一人一人を大事にしている。

「しかし仕事は、おべんちゃらを言ってまで欲しくはありません。芸人としての誇りとしてケジメはつけています」

満月は浪曲のほかに歌謡曲、河内音頭が営業品目だ。

「仕事の8割が歌です。しかし歌はアルバイトです。浪曲は安く売りません」

浪曲のギャラは高額だ。曲師と二人づれではなく、音響係、後見、介添え、受付などを揃えてプロジェクトチームを組んで乗り込むのだ。

「浪曲に掛ける意気込みも先方にわかってもらえるし、私も発奮します。お客さんを納得させて次回も、また呼んでもらえる好循環になります」

酒は飲まず、バクチは麻雀もできない。おんなも興味がない。考えているのは浪曲と仕事のことだけだ。

「将来の浪曲は、一席が10分ぐらいで完結するような簡潔でドラマ性の高いものになるでしょう。10分ならお客さんも聞いてくれます。それと歌謡浪曲になるんでしょうね、曲師不足は慢性化するでしょうし」

声を出すために努力を惜しまない。8本の歯をインプラント（人工歯根）にしている。

「歯には外車一台ぶんのお金を使ってます。死に金は使わない。安くないギャラを取るわけですから、身体や舞台衣装に金を費やすのは当然なんです」

毎年、舞台衣装の着物は10枚は作る。

「一度、仕事にいった時には着物の柄はノートにつけて次回は重ならないようにしています。企業努力ですよ」

テーブル掛けも10枚以上もっている。

「これは私の浪曲ネタよりも多いですわ。ははは。もっと勉強しますわ」

満月と話をしていると元気が湧いてくる。地球の温暖化はたくさんだが、芸による人の心の温暖化は大歓迎だ。

「ギャラにしても事前にキッチリ決めていきます。いくらでもいいですよ、なんていいかげんなことは一切いいません。あとのケンカは先にしておけ、が好きな言葉です」

歌謡曲でも『中岡慎太郎』（キングレコード）というヒット曲を持つ満月。志なかばに倒れたが幕末に日本の夜明けを夢見た志士・中岡慎太郎に満月の姿は重なる。

満月「個人会社」の繁栄が浪曲界を変える大きな契機になるかもしれない。

平成6年、イスタンブールで。文化庁主催の文化交流会のメンバーとして河内音頭を披露した。今年・平成10年1月には同じようにミャンマーに行く。

リサイタルやディナーショーも行なう。歌手としても評価が高い。

平成元年、大阪浪花座の「四代目天光軒満月襲名披露」。冨士月の栄、マイクを持つ京山幸枝若、満月の右は天中軒雲月、春野百合子などが大名跡を継いだ満月を祝福した。

浪曲…これほどすばらしい芸は他にはないと思います。
浪曲家の皆さん…頑張って下さい。
多くのファンを楽しませて下さい。

35/52

葛飾区・坂本豊吉